

「熊本県学校教育情報化推進計画」(案)【概要】 (計画期間:令和6～9年度)

基本的方向性 (目指す姿)

ICTを活用し、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるような
「資質・能力」
 を身に付けた児童生徒の育成

実現

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

教職員の負担軽減

学校の業務改革 (BPR)

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

教育DXの推進

データ連携による新たな学習指導・学校経営の高度化

- ・1人1台端末の日常的な活用の中で「児童生徒主体のICT活用」が普及
- ・「学習データの活用」が普及
- ・「不登校・障がい等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細やかな支援や県立高校の魅力化等へのICTの活用」が普及
- ※熊本大学や熊本高等専門学校等の教育・研究機関、ICT企業等との連携が進展

- ・汎用クラウドツールの活用、校務支援システム等の充実・クラウド化、校務系・学習系ネットワークの統合、教職員用端末の一台化、データ連携基盤(ダッシュボード)等が普及

基本的な方針

主な目標 (指標)

目標達成に向けた取組み

全般的事項

優良校認定(3年ごとに更新)について、各学校において、主体的に認定更新を行い、学校情報化の底上げ(格差解消)・レベルアップ

●1人1台端末を授業でほぼ毎日活用している学校の割合

小学校	69.8%	⇒ 100% (R9)
中学校	66.7%	
県立高校	74.6%	

各学校の「学校情報化優良校」の認定の更新(再取得) 市町村による「学校情報化先進地域」の認定取得等を支援

児童生徒の情報活用能力

情報活用能力の育成、健康面への配慮、いじめ・自殺・不登校等の対応の充実、障がいのある児童生徒の教育環境の整備、相当の期間学校を欠席する児童生徒に対する教育の機会の確保、日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実、県立高校における魅力化等の推進

基本目標 (成果指標)

●児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で1人1台端末を使用(ほぼ毎日+週3回以上)させている学校の割合

小学校	49.8%	⇒ 80% (R9)
中学校	41.4%	
県立高校	48.3%	

教職員向け研修、県指導主事による訪問指導、公開授業や事例集等を通じた普及・指導等、情報モラル教育の充実 1人1台端末等を活用した児童生徒の心身の状況把握のためのツールの導入等 遠隔授業や国内外との交流等県立高校における特色ある学びの推進

教職員のICT活用指導力

格差解消、更なる底上げ、レベルアップ等学校の教職員の資質の向上 ICT教育推進に向けた人材の確保等

●ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れている学校の割合

小学校	46.8%	⇒ 100% (R9)
中学校	43.1%	
県立高校	100.0%	

企業・大学等と連携し、ICTを効果的に活用した授業づくりのための、より実践的・効果的な研修の充実 ICT支援員等専門的人材の確保 遠隔授業等による高校の教科「情報」の指導力・体制の充実

ICTの環境整備

学校におけるICT活用のための環境整備(1人1台端末、大型提示装置、NW等)、教育データの利活用、教育DXの推進、デジタル教材等の普及の推進、個人情報の保護、情報セキュリティ対策等

※上記のほか、全般的事項、児童生徒の情報活用能力、教職員のICT活用指導力、ICTの環境整備、ICT推進体制の整備と働き方改革の各項目について、別途、個別目標(活動指標)も設定。

1人1台端末の更新等は、県立高校については、原則としてBYODにより整備することとし、円滑な更新を推進。その他の学校についても、基金等活用により適切な更新を推進 デジタル採点・分析ソフト等の活用による教育データの利活用、教育DXの推進

ICT推進体制の整備と働き方改革

学習の継続的な支援等のための体制の整備 情報化による校務の効率化(校務支援システムのクラウド化等)

県指導主事による訪問研修、指導・助言や公開授業等の実施、「熊本県GIGAスクール構想推進連絡協議会」等による県・市町村教育委員会の施策連携等 汎用クラウドツール等の活用、校務支援システムのクラウド化、校務・学習系ネットワークの統合等